

検討事項	検討方法【第2回提示】	検討内容	ヒアリング結果	今後の対応
検討課題1：車両走行データの取得方法				
① CANからのデータ取得の実現可能性・手法、実現可能時期	<ul style="list-style-type: none"> CANからデータ取得している事例把握及び海外での取り組みの把握 自動車メーカー、機器メーカー及び行政等関係者において検討 	<ul style="list-style-type: none"> OBDポートは整備専用であり、走行中に接続していることを想定していないため、専用ポートを新たに設置する可能性について（例：FMSスタンダード） 専用ポートを新たに設置する可能性について（例：FMSスタンダード） CANから取得可能なデータとFMSスタンダードで公開されているデータの差について FMSスタンダードで決められたデータ以外に必要なデータ、FMSスタンダードで不必要なデータについて 	<ul style="list-style-type: none"> OBDポートからのCANデータの取得については、保安基準において禁止する規定はないが、自動車メーカーから安全上の懸念が指摘されていることを踏まえれば、これを推奨することはできない。 rFMSについて検討 データ精度（桁数や取得頻度）が異なる。（FMSスタンダードはCANデータの一部に過ぎない。） FMSの全項目が必要か否か検討の余地あり。 今後の市場ニーズを見据えて検討する必要がある。 CAN化されていないデジタル式運行記録計のデータ（例：運転手の状態）が必要か。 	資料2-3
検討課題2：運行記録計の要件				
① 運行記録計の目的の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 事業者及び関係機関等へのヒアリングを行い、デジタル式運行記録計の役割の整理 			「次世代運行管理についての勉強会（仮称）」設置
② 法定3要素（速度、時間、距離）以外のデータの基準化・標準化	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の要望、機器の品質及びコスト等への影響を踏まえつつ、機器メーカー及び行政関係者において検討 	<ul style="list-style-type: none"> CANからのデータ取得により、より効果的な運行管理、データ精度、取付費の削減について 		
③ 技術基準及び試験方法等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 海外事例等を踏まえ、技術基準及び試験内容等の見直しを検討 	<ul style="list-style-type: none"> 技術基準等の見直しについて 	<ul style="list-style-type: none"> 技術基準、試験方法については、運行管理に用いるデジタル式運行記録計の目的及びニーズ並びに保安基準で設置が義務づけられている運行記録計との関係も踏まえ、今後検討したい。 	
検討課題6：一元管理すべき情報（個々の事業者内）				
① 活用方策の提案	<ul style="list-style-type: none"> 運行管理や健康診断、休息期間中のヘルスケアデータなどを運転者ごと一元管理することで、健康予測や運転者教育等更なる安全指導の提案 事業者や安全運行サポーター協議会等から活用方策について意見収集 			資料2-1, 資料2-2
検討課題7：一元管理の方法（事業者間での情報の集約化・利活用）				
① 一元管理の効果を提示	<ul style="list-style-type: none"> 事業者、機器メーカー、安全運行サポーター協議会及びIT関係企業等から効果及び個人情報の扱いについて意見収集 			安全運行サポーター協議会や先進的な取り組みを実施している事業者との連携
② 個人情報の扱い				

※検討課題3、4、5については、検討会、勉強会の検討状況により判断。

次世代運行管理・支援システムの検討課題

